

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 大河原町立大河原中学校
 種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()
 住所 〒 989-1247
宮城県柴田郡大河原町字東1番地
 E-mail : daichu@town.ogawara.miyagi.jp
 Website : _____
 児童生徒数：男子 331名 女子 318名 合計 649名
 児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 担当者 ※公表しません

職名：教諭
 氏名：佐藤 泉 (女)
 E-mail：daichu@town.ogawara.miyagi.jp
 ※学校の共用メールアドレスをご記入ください。共用メールアドレスがない場合、
 個人メールアドレスでも可。

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

1 主な内容

国際理解, 防災・減災教育, その他 (ボランティア活動)

2 目的

- ① 宮城県岩沼市の仮設住宅に住む被災された方々への支援活動を通して、生徒たちに絆やつながり、協力や協働といったボランティア精神の育成をめざす。
- ② 県内でも内陸部と沿岸部では震災への意識に温度差があるので、生徒会に「復興支援委員会」を組織し、定期的な支援活動や交流を図り生徒の復興支援への意識を高める。
- ③ 生徒の防災活動の活性化に取り組み、自ら進んで安全活動に取り組む意識や、地域住民の一員として防災意識の高揚を図る。
- ④ 海外の被災地の様子を知ることを通して、これまで行ってきた被災地支援の目を広く海外に向ける。

3 実践内容

(1) 年間活動報告

月	活動内容	添付資料
5	生徒総会 (これまでの復興支援の取組を紹介し継続した支援活動を確認)	
6	全校奉仕活動 (校舎内外の清掃, 除草作業)	
7	JRC一日トレーニングセンター参加	
8	被災地支援活動Ⅰ (風鈴づくりを通じた交流)	写真1
	福祉ボランティア活動参加	
	生徒向け救命救急講座	
9	全校奉仕活動 (校舎内外の清掃, 除草作業)	
11	大河原町総合防災訓練参加	写真2
	国際理解講演会	写真3 新聞記事
12	被災地支援活動Ⅱ (クリスマスツリー設置)	写真4
1	ボランティア生徒による雪かき	
2	全校集会 (報告と発表)	
通年	JRC委員による朝の地域清掃	
	地域の福祉団体とタイアップしたボランティア活動	
	書き損じはがき, エコキャップ収集	

(2) 実践活動例

1 被災地支援活動Ⅰ「風鈴作りで岩沼市の被災された方々と交流しよう」

① ねらい

- ・ 震災後、被災した土地で復興に取り組んでいる岩沼市玉浦林地区に伺い、地区の方々と一緒に風鈴作りを行い、交流を深める。

- ・ 地区の人と一緒に作業を行う際に、お茶のみなどをしながら、震災時の様子や今後必要な支援についてお話を伺い、今後の被災地支援活動の参考とする。
- ② 日時 平成27年 8月17日(月)
- ③ 場所 岩沼市玉浦 林2地区
- ④ 参加生徒 復興支援委員, ボランティアセンターメンバー(10人)
- ⑤ 内容 風鈴作り, 交流
- ⑥ 生徒の様子・反省等
 - ・ 夏らしいものを制作しプレゼントしたいという生徒の意見から風鈴作りを行ったが、林2地区の方々も生徒と一緒に風鈴づくりを行うことを喜んでくださり、生徒も意欲的に取り組んだ。
 - ・ 風鈴作りは細かい作業が多く、交流した林地区の方は高齢の方が多かったため、作業に時間がかかってしまった。制作物検討が必要である。
 - ・ 被災した玉浦地区でも、仮設住宅への支援は多いが、そのままの土地で復興に取り組んでいる林2地区にはあまり支援や、交流に来る人が少ないとのことで、熱烈な歓迎を受けた。
 - ・ 手作りのおにぎりや茶菓子を準備していただき、中学生も打ち解けた雰囲気での会話や交流をすることができた。
 - ・ 参加生徒が少なかったが、参加した生徒は被災地の復興の様子を知り、また被災した人々との交流から多くのことを学ぶことができたようだ。

2 大河原町総合防災訓練参加

- ① ねらい
 - ・ 地震発生を想定した防災訓練に参加することで、自ら危険を予測し、回避する力を養う。
 - ・ 地域住民とともに訓練に参加することで、地域の安全に貢献する心や地域の一員としての意識を高める。
- ② 日時 平成27年11月22日(日)
- ③ 場所 大河原中学校 校庭
- ④ 参加生徒 ボランティアセンターメンバー(37名)
- ⑤ 内容
 - ・ 開会式
 - ・ 地震発生(サイレン吹鳴)
 - 倒壊住宅救出訓練, 土砂埋没救出訓練, 応急手当訓練, 煙中通過訓練, 初期消火訓練
 - ・ 閉会式
- ⑥ 生徒の様子・反省など
 - ・ 地域住民や消防署員, 消防団の方々と一緒に行うことで、学校の避難訓練とはまた異なる緊張感をもち参加していた。
 - ・ 実際の避難を想定した訓練を体験することができ、より防災を考える機会となった。
 - ・ 昨年は部活動の大会や練習試合と同じ日になり参加する生徒が少なかったが、今年は多くの生徒が参加することができた。

3 国際理解講演会

- ① ねらい
 - ・ 海外で支援活動をしている方の話しを通して、外国の様子を知り、これまで行ってきた被災地支援の目を広く海外に向ける。
 - ・ 自分たちができる国際貢献について考える機会とする。
 - ・ 大河原中学校の卒業生の先輩の生き方, 体験を通して、自分の将来に生かす。

- ② 日時 平成27年11月25日(水) 5, 6校時:総合的な学習
- ③ 場所 体育館
- ④ 参加生徒 全校生徒
- ⑤ 内容 国際支援活動についての講演会
- ⑥ 演題と講師
 演題:「アフリカへの医療支援活動～看護師の視点から～」
 講師:菊地紘子さん
 (H23～25年 海外青年協力隊員の保健師として西アフリカ・ベナンで活動,
 H26～27年 国境なき医師団の保健師として中央アフリカにて活動)
- ⑦ 会次第 (進行:主幹教諭)
 - ・校長先生の話(講師紹介含む)
 - ・講話
 - ・質疑応答
 - ・生徒代表お礼の言葉(生徒会会長)
 - ・花束贈呈(生徒会執行部)
- ⑧ その他
 - ・事前指導……ベナン, 中央アフリカの様子について学級毎に説明する。
 - ・事後指導……感想文の記入(講師の先生に送付)
 - ・JRC委員を中心に, 学んだことや今後行いたい国際貢献について調べる。
- ⑨ 生徒の様子・反省など
 - ・途上国の生活の様子を知るとともに, 日本の豊かさを学ぶ機会となった。
 - ・医療体制が整わず文化も異なる中, 命を守るために活動した様子から, さまざまな職業や支援があることがわかった。
 - ・大河原中学校の卒業生を講師としてお招きしたので, 身近に感じることができた。
 - ・中学校時代に持っていた海外で支援活動を行うという夢を達成した姿から, 夢に向かって頑張ることの大切さを学ぶ機会となった。

4 被災地支援活動Ⅱ「クリスマスツリーを楽しんでもらおう」

- ① ねらい, 内容
 - ・岩沼市の仮設住宅から集団移転した玉浦地区の集会所前3か所にクリスマスツリーを飾り, 住民の方々に季節の行事を楽しんでもらう。
 - ・支援活動を継続して行い, 大河原中が学校生徒の末永い支援の思いを被災した方々に伝える。
- ② 日時 12月19日(土)
- ③ 場所 岩沼市玉浦地区 中集会所
- ④ 参加生徒 復興支援委員会生徒(10名)
- ⑤ 内容 クリスマスツリーの設置, 交流
- ⑥ その他
 - ・クリスマス翌日(12月26日)に訪問し, クリスマスツリー撤去を行う(次年度も使用)。
- ⑧ 生徒の様子・反省など
 - ・仮設住宅の時から行っている支援活動なので, 集団移転した場所でも, 住民の方も覚えていてくれ, 励ましの言葉をたくさんいただき, 生徒の励みとなった。
 - ・例年, 吹奏楽部のミニコンサートも同時に開催していたが, コンクールと重なり実施することができなかった。

- ・今回は、こちらから茶菓子を持参し、地区の方と交流の時間を取り、集団移転地での生活の様子について和やかな雰囲気の中で伺うことができた。
- ・今後、クリスマスツリーの設置以外の新たな冬場の支援活動について考えていきたい。

3 学習成果

- ・本校では、被災地ながら被災地（岩沼市）を支援するという活動を5年にわたり継続してきた。初年度は仮設住宅入居者の交流が少ないということから、入居者が交流できる場をつくりたいという生徒からの意見が出され、「木製の手作りベンチ」を製作しプレゼントした。2年目は仮設住宅の夏は暑いということニュースで聞き、メッセージ入りの「手作りうちわ」を美術部と全校生徒で制作しプレゼントした。3年目は1年目にプレゼントした手作りベンチの補修とペンキ塗りを行った。また、冬には募金によりクリスマスツリーを購入し、飾り付け、手作りの小物をプレゼントしてきた。また、吹奏楽部によるミニコンサートも開催してきた。このような活動を行うことで、委員以外の生徒にもボランティア活動に興味をもつようになり、生徒のアンケートでは9割以上の生徒が今度も復興支援活動を続けていきたいと意欲的が育ち、ボランティア精神の高揚がみられた。今後も継続して行うとともに、地域での自発的な支援活動や他ボランティア活動への積極的な参加、地域住民としての防災意識へつなげていきたい。
- ・5年前から、継続して支援活動を行ってきた岩沼市里の杜仮設住宅は昨年閉鎖したので、集団移転先への支援活動を行うことにしたが、本校の活動を知っている方も多くなり、あたたかい励ましの言葉をいただき、生徒の励みとなった。
- ・昨年からは、仮設住宅だけでなく、被災した土地に残り復興に取り組んでいる岩沼市玉浦地区の方への支援や交流を始め、継続して支援することができた。
- ・毎回、復興支援活動をするとときに生徒の輸送方法が確保されず、訪問回数や参加生徒の人数を制限することがあり、検討が必要である。
- ・国際理解講演会では、本講の卒業生を講師として招いたこともあり、海外への支援活動について身近に感じることもできたようである。エコキャップ収集以外の支援活動や募金、物資の支援にも関心をもつ生徒がおり、来年度の活動に取り入れていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他（ ）